



道  
守

みちもり

MICHIMORI  
TSUSHIN

通信

vol.30 春号



巻頭インタビュー

道守活動は温もりのある  
地域づくりにつながる取組みです  
伊藤祐一郎(鹿児島県知事)

がんばろう 熊本・大分

熊本地震 国道57号、阿蘇大橋など甚大な被害

みちづくし in 福岡 2015

「新しい公」 道守活動  
～輪を広げつながろう～

東九州自動車道開通

はじまる・ひろがる・循環高速・新時代

## 道守九州会議 設立趣旨

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄り、縁台で将棋をさし、ぼうずで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなどは整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のこみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組み人々が増えている。行政まかせから、道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し、道と人の新しい縁を紡ぐ。  
さあ、新しい道に一歩踏み出そう。



日南海岸きらめきライン～日南海岸のはまゆう～

## CONTENTS

- 01 巻頭インタビュー  
道守活動は温もりのある地域づくりにつながる取組みです  
伊藤祐一郎（鹿児島県知事）
- 02 がんばろう 熊本・大分  
熊本地震 国道57号、阿蘇大橋など甚大な被害
- 04 わたしの好きな道  
震災に負けず、がんばります！  
～九州横断の道 阿蘇くまもと路～
- 05 私たちの道守活動
- 08 みちづくし in 福岡 2015  
「新しい公」 道守活動 ～輪を広げつながろう～
- 12 東九州自動車道開通  
はじまる・ひろがる・循環高速・新時代
- 14 海外道事情 アメリカ  
玉川孝道
- 15 道守たちのトピックス
- 16 道守人物伝・道守の輪
- 17 横顔・編集後記

表紙画：久富 正美

1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

## 巻頭 インタビュー

# 伊藤祐一郎

YUICHIRO ITO

（鹿児島県知事）

## 道守活動は温もりのある 地域づくりにつながる取組みです

道守九州会議が発足して12年、この秋、鹿児島（薩摩川内）で「みちづくし大会」が開かれます。鹿児島では道守たちが道路清掃や花壇作り、子供たちへの啓発活動など道守活動を活発に展開してきました。知事はこのような評価をされていますか。

伊藤知事 まず、九州各地で道守の活動をされている皆様による、年に1回の交流会「みちづくし大会」が、当県の薩摩川内市において開催されることを歓迎いたします。

道守活動は、地域のボランティア団体等による道路清掃や花壇作りなどの活動を通して地域社会づくりにつながる取組であると考えて

います。行政だけでは目が行き届かない部分もありますので、これらの活動は大変ありがたく、心強く感じています。「住民と行政の協働」が今後の道守活動の展開には重要な力ギとなる行政のトップとしての知事の姿勢、行政支援などについて教えてください。

知事 行政だけでなく、地域の自治会・ボランティア・NPO・企業など、多様な主体が地域づくりの担い手となり、それぞれが連携・協力して地域社会を支え合う仕組みを構築する「共生・協働の地域社会づく

り」は、私が就任以来進めてきたテーマであり、県政の最も基本的な課題の一つと考えています。県内の市町村とも十分に連携を図りながら、地域のコミュニティ活動を担うリーダーの養成や、NPOなど担い手の育成と活動の促進を図るためのセミナーを開催するなどの支援を行っています。

また、道路に関しては、ふるさと道サポート事業を実施し、県が管理する道路における草刈り等の美化活動を行う団体等の支援にも力を注いでいます。

鹿児島島の2本の風景街道を活性化するためには、道守活動や道の駅との連携が進まなければなりません。連携推進のために、行政としてどのように考えておられますか。

知事 日本風景街道は、多様な主体による協働のもと、道を舞台に地域ならではの風景や自然、歴史、文化などの地域資源を活かした「活力ある地域づくり」や「観光振興」を目指す活動ですが、地方創生につながる取組の一環とも言えると思います。

当県において観光は、農林水産業と並ぶ主要産業であり、経済を活性化させる産業です。従来から、外国人観光客も意識しながら、沿線景観の整備を含めた「魅力ある観光地づくり事業」を進めています。この観光を地方創生の中核に据えて大きく飛躍させる新たな施策を、「観光がこ

しま新時代への挑戦」と題し、今年度からの3年間集中的に展開することとしています。

また、幹線道路の整備は、交流人口の拡大につながり、大きな経済効果をもたらす、まさに地方創生時代の象徴的なものでもあります。

当県には、「かこしま」と「薩摩よみち」の2つの風景街道があり、この2つのルートにおける既存の取組と、県内に21ある「道の駅」が有する地域連携機能や情報発信機能、道守活動、観光振興及び道路整備といった県の施策を連動させることが重要であり、その結果、地方創生に寄与するものとなるのではないかと考えています。

住民と行政が協働する「新しい公」の考え方が今後の地方創生のキーワードになると思われるが、知事の住民のボランティア活動に対する基本的な考え方を教えてください。

知事 私は、鹿児島の良き伝統や風土を十分に活かしながら、子どもからお年寄りまで、すべての人がお互いを思いやり、支え合う、優しく温もりのある有徳の地域づくりや、「しごと」「ひと」「まち」をつくる取組を進めていきたいと考えています。県民のボランティア精神こそが、その原動力になると信じており、大いに期待しているところでもあります。

道守活動について、今後はどのような



うになってほしいと思われませんか。

知事 道守のような共生・協働の活動は、温もりのある地域社会づくりに資するものだと考えており、今後も皆様の御協力をいただきながら取組を進めてまいります。

これからも、この素晴らしい活動がますます発展し、地域の活性化につながるよう期待しています。

（インタビューアー 道守かこしま会議代表世話人 田島直美）  
インタビュー 平成28年3月11日



プロフィール  
昭和22年11月17日鹿児島県出水市出身、東京大学法学部卒業。自治省入省後、平成16年鹿児島県知事就任。信条「身に私を構えず、「敬天愛人」

道守 Vol.30

# がんばろう 熊本・大分

## 熊本地震 国道57号、阿蘇大橋など甚大な被害

4月14日、熊本地震が発生、同16日にはM7の本震が熊本市、益城町などを襲った。死者49人、行方不明1人、家屋倒壊、半壊はじめ、甚大な被害を与えた。救急、救難、復旧の動脈となる道路被害も大きく、通行止めが相次いだ。特に、熊本～大分を結ぶ阿蘇大橋地区では大規模な斜面崩壊が発生し、国道57号や国道325号阿蘇大橋が落橋するなど、甚大な被害となった。

道守や風景街道の仲間たちは早速、壊れた屋根のシート張りなどボランティア活動や救援募金をスタートさせるなど「がんばろう 熊本・大分」を合言葉に支援活動を行っている。募金活動は長崎、大分等の道守会議などが進めた。

また、熊本河川国道事務所をはじめ国交省九州地方整備局も、総動員の非常体制で「命の道」道路復旧に連日、連夜の努力が続いた。リエゾン、TEC・FORCE（全国から最大440人（4/22）を派遣、支援や復旧にあたった。特に、国道57号が斜面崩壊で不通となったため、う回路のミルクロードの迅速な復旧で熊本～大分の横断道路を確保、また南阿蘇への俵山トンネルが被災したためグリーンロードの復旧（啓開作業）をしたほか、被害調査を始め多様な復旧作業に力を尽くした。

余震は、なお続き1か月に1500回（震度1以上）続いている。現在までの被害状況の報告と、自然を愛する会（熊本市）会長・阿南誠志さんたちの支援活動や募金活動、被災状況の現地調査に当たった熊本大松田泰治教授、九州防災エキスパート会松嶋憲昭会長の調査を報告する。

### 自然を愛する会代表 阿南誠志さんたちの活動報告

熊本地震発生してすぐ、被災地を回りました。「自分たちに出来ることを、必要

と、と言えるのではないのでしょうか。また、火災がなかったことも大きな特徴で、電力、ガスなどの防災対策の向上が効果的だった、と思います。

### 九州防災エキスパート会会長 松嶋憲昭「長陽大橋の調査」



4月20日に九州地方整備局OBで組織する九州防災エキスパート会とPC建設業協会で熊本県南阿蘇村の長陽大橋を調査しました。この長陽大橋のある村道は、落橋した国道325号阿蘇大橋の代替路になることから、早期復旧に向けて長陽大橋の被害状況の調査を依頼されたものです。

国道57号から分岐し長陽大橋に至る村道を少し進むと、断層と地すべりが原因と思われる大きな亀裂が現れ、橋に近づくと亀裂が激しくなっていました。長陽大橋の西側の区間は、表層が白川に向かって流れ出たような大規模な地すべりが起きており、橋台が約1.5m沈下し、橋が浮き上がったようになっています。

とされていることからさせて頂くが、我々、自然を愛する会のボランティア活動の基本理念です。被災地には地震で屋根瓦が落ちて、雨漏りなどで困っている家屋が多くありました。いろいろなボランティアの皆さんが活動されていますが、危険箇所には入れません。私たち山登りの仲間、高所に上る技術と鍛えた身体があります。そこで屋根にビニールシートを張って雨漏りを防ぐ活動をスタートさせました。高いところでも登山用ロープを使って上り、作業が出来ます。震源近くの益城町赤井地区を重点に活動が続けました。1日4～5軒ずつ、多い日で1日50人が参加、すでに、延べ600人以上の仲間が参加しています。



屋根にビニールシートを張って雨漏りを防ぐ

普及作業のお手伝いだけでなく赤井地区が持つ美しい小川や自然、古くからの神社などを活かした新しい街づくりがお手伝いできたらと思っています。自然を愛する会は、阪神淡路大震災の時は寒い時期でしたので、だこ汁やおにぎりなどの炊き出し活動をしましたし、東日本大震災の時は、がれきの片づけな

した。支承部の破損はありましたが、橋本体には致命的な破損はなく、橋の前後の道路を復旧すれば、再び通行することができると思われます。現在、詳細な調査と復旧工法が検討されていると聞いており、一日も早い開通を願っています。

### 道守大分・風景街道・道の駅が連携して募金活動



道の駅がのせき「みなさまのご協力をお願いします」と松尾駅長

道守大分 会議では、「私たちに出来ること」を考え、道守大分・風景街道・道の駅による三者連携のプロジェクトとして「熊本地震災義援金」と題し、被災者の皆様への支援目的とした募金の取り組みを行っています。（平成28年6月1日時点）

当初総会で、「2020年パラリンピック開催に向け、子ども用競技用車椅子を寄付する募金活動を行う」ことを行うため募金箱の準備を進めていたが、此度の地震により優先順位を繰り上げ、実施することにしました。協力していただける道の駅や企業・団体に期間を定め、募金箱を置かせていただき、ご協力をお願いし、早期復興の役に立ちたいと思っています。



水前寺参道入口鳥居横桁が崩落（熊本市）



巨大な落石で押しつぶされた車が2台（南阿蘇村）



益城町では家屋倒壊が相次ぎ、マイホームが失われた



南阿蘇村阿蘇大橋を落橋させた土砂崩落（南阿蘇村立野）



道守巻物 平成28年2月6日)



道守巻物に書き込む皆さん (平成28年2月6日)



ひな祭り清掃に参加した皆さん(平成28年2月6日)

中でも清掃体験事業は発  
足より継続しており、今年  
2月の開催で12回目を迎え  
た『佐賀城下ひなまつりお  
もてなし清掃』は、毎回、  
大勢の方に参加いただいで  
ます。同時開催で、清掃終  
了後に道に対する自由な思

いを布に書いていただく、『佐賀の道  
守巻物体験』も好評で、回を重ねる  
毎に、親子での参加や、企業、サー  
クルなどの参加が大幅に増えて、道  
の大切さ、道への思いや願いなどが  
共有できて、道  
を通じたおもて  
なしが定着して  
いるように思え  
ます。



佐賀会議道守旗

平成23年の佐賀大会宣言として、  
『私たちは花を植え、ゴミを拾い、道  
を学び、道を守ってきました。これ  
からも道が楽しめる場所であり、道  
守の心を育てて、未来をひらくつな  
がりの道の大切さを、次の世代に伝  
えていきたいと思います。』と唱えました。  
今後、足跡を残し、活動を掘り  
起こして輪を広げ、大会宣言の思い  
を次の世代へ伝えていける更なる10  
年でありたいと思っています。

## 佐賀

### 道守佐賀会議

#### 活動の掘り起こしで更なる10年へ

見学・花植えの体験・清掃の体験な  
どを「道守PRの体験事業」を実施  
してきました。

平成16年の発足以  
来、道守活動の拡大  
を目指して、道の歴  
史探検・新規道路の

援そうじ』を  
通して、来場  
者へのおもて  
なしと更なる  
道守PRが出  
来るのでは  
と、今年から  
合同での取り  
組みになりま  
した。清掃で  
おもてなしを  
続けて活動の  
輪を広げてい  
ければと思っ  
ています。



清掃活動の輪は広がっている

# 私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題  
と向き合う。それは私たち自身の  
未来を考えること。歩いて楽しく、  
暮らして楽しい地域づくりのため  
に、九州各地の道守会員が取り組  
むスタイルやアイデアなどもさまざ  
まな活動を紹介いたします。

## 大和ハウス工業(株)佐賀支店

### 佐賀



大和ハウスグルー  
プは、「地域共生活  
動理念」を掲げ、地  
域の人々との対話を  
通じて地域課題を認  
識し、その解決に向  
け、共に活動するこ  
とにより、地域社会  
からの信頼を得てい  
くことを目指してお  
ります。

大和ハウス工業佐  
賀支店においては、  
「楽しみながら地域  
のお役に立つ活動」  
をスローガンに、毎月様々な活動を行っており  
ます。平成27年は、佐賀インターナショナルパ  
ルンフェスタ」でのボランティア活動をはじ  
め、「ハートライトフェスタ」のイルミネーショ  
ンアートのボランティア活動、そして、次世代  
を担う子どもたちに桜を植樹していただく「桜  
プロジェクト」を、佐賀市開成小学校で開催し  
ました。

今後大和ハウスグループは、地域社会の一  
員として積極的に地域共生活動を行ってまいり  
ます。(佐賀支店地域共生委員 野田)



斜面崩壊が襲った国道57号と阿蘇大橋 被災の前(右)と後(左) 熊本県南阿蘇村立野地区空撮



# わたしの好きな道

## 震災に負けず、がんばります!

### ～九州横断の道 阿蘇くまもと路～

熊本は4月14日と4月16日、二度の大地震に襲われました。この震災  
で、犠牲となられた49名の方々に、改めて、哀悼の意を表します。  
私が住んでいるのは熊本市。市内全域で震度6強を記録、全壊の家も  
多数あります。被害の大きかった益城町、西原村をはじめ、あちこちに  
大きな被害をもたらした今回の地震。建物の被害はもちろんです。人々  
の心に残った傷跡も計り知れないものがあります。

道守くまもと会議事務局のスタッフたちも、一時は避難所で暮らした  
り、遠方の実家に避難したりするなど、日常と違う生活を余儀なくされ  
ました。

さて、風景街道「阿蘇くまもと路」。熊本城の崩れた壁や石垣、阿蘇  
神社の倒壊した姿、山がえぐられたような阿蘇大橋の崩壊現場など、多  
くの方がご覧になった映像ではないでしょうか。

あれらは全て「阿蘇くまもと路」にあった大切な地域資産でした。熊  
本城の再建は20年、30年、阿蘇神社の再建は10年、阿蘇大橋に至っては  
どうするのか、まだ決まってもいません。

私たち道守くまもと会議では、草原景観の保全 ゆっくり寄り道ツ  
リズム 自然と観光の共生 熊本城下風情の構築を活動方針にあげてき  
ましたが、今後どういった形で活動するか、サポートしていくか、今、  
検討の真っ最中です。多くの観光客が訪れていた阿蘇・熊本地方ですが、  
どうすれば地域の人々、訪れてくれる人々のためになるのか、もういち  
ど、見つめなおす機会なのかもしれません。

その一方、うれしいニュースもあります。「NPO法人自然を愛する  
会JOC」が毎年続けてきた「九州横断 豊後街道徒歩の旅」は例年通  
り開催が決定。子どもたちが地元を見直す旅が今年も行われます。

「阿蘇くまもと路」の多くを占める豊後街道は、加藤清正が400年  
以上前に作った歴史ある道です。地震、水害、火山の噴火など多くの災  
害を乗り越えて現在に至ります。私たちの代で途絶えることのないよう、  
未来に引き継いでいきたいと思います。



#### プロフィール

井手 綾子(いで・あやこ)

熊本県熊本市在住。西南大学法学部卒業後、雑誌やウェブの編集に携わる。平成25年より道守くまもと会議事務局に入る。

福岡



うきは市福富地区自治協議会

赤い花の帯続く「サルビア街道」

私たちの住む「うきは市」は、北は九州一の大河「筑後川」、南は屏風山と称される美しい「耳納連山」に囲まれた風光明媚な自然環境、田園景観を今もなお保っています。

福富地区自治協議会では平成2年より、道路環境美化運動の一環として、耳納連山に平行して通る、県道浮羽草野久留米線に植栽したサルビアをプランターに入れ、10月から11月にかけて、約4kmにわたり道行く人々の目を楽しませています。

今後、道路環境美化運動を道守活動として「サルビア街道」を、人と人を結ぶ道として広げて参ります。  
(会長 清家順介)



サルビア街道



プランターの手入れ

大分



「生石港町港友会」& 大分国際情報高校

西大分 笑顔のガーデン

「老人会も高齢化で人数も減り、花壇のお世話はもうムリ！」と、風景街道「別府湾岸・国東半島海への道」の総会で会員の生石港町港友会からの訴えがあったのは平成27年5月11日のこと。

その後、道守大分会議と風景街道が協議し、会員の大分国際情報高校に協力を依頼。すぐ、快諾をしていただき、10月9日にシバザクラの植え付けをしました。当日は、港友会、高校生、道守会員、それに大分河川国道事務所の職員約50人が、約200株のシバザクラを和気あいあいのうちに植え付けて、無事に「笑顔のガーデン」が完成しました。

また、趣旨に賛同していただいた地元の企業7社からは金一封やお茶の差し入れ等もいただきました。根付いた芝桜は2、3年で株分けが可能となりますので、今後いろんな場所に広がっていくのが楽しみです。

困った地域の老人会、それを助けた高校生、そして道守大分会議と風景街道の連携。西大分生まれの「笑顔のガーデン」が歩み始めました。  
(道守大分会議副代表 亀野辰三)



笑顔のガーデン作業終了!



笑顔のガーデン作業中

長崎



大村マイツリー会

再出発!

一般国道34号の大村市役所から、約2km区間の清掃活動を昨年から行っています。当区間が道路拡幅整備されたことで平成22年に発足した会でしたが、暫く休眠状態の中で会員の方より「再度復活したい」との意向があり、会の名前はそのままに昨年の6月より始めました。最初は手探りの状態でゴミ袋、手袋等持参し8名で歩道の美化活動を行いました。その時、参加者から「もう少し準備が必要」との声があり、第2回の活動では必要な道具類の準備及び、傷害保険の加入など整い22名の参加で開催しました。

その後、第4回の活動には沿道の商店からの参加もあり、26名での活動を行い今後への弾みを感じています。年に4回の活動ではありますが、地域の環境が少しでも良くなればとの思いで、今後も続けていく所存です。  
(諫早・大村地区世話人 小川稔)



国道34号の清掃活動



清掃後、集合写真

宮崎



株式会社坂下組

感謝込めて「老松通り」清掃

私たち坂下組は、10月の道守一斉活動に加え、毎週月曜日の朝にも「老松通り」をはじめ周辺地域の清掃活動を実施しています。

当社の面する宮崎市の「老松通り」は、北に進むと日向市・延岡市・大分県に向かう国道10号線に合流し、南に進むと観光名所の青島や日南市に向かう国道220号線と合流する道です。また、宮崎駅西口に面していることもあり、日々多くの車や人々が行き来しています。このように道は、街と街、人と人をつなぐ大切な役割を担っています。

私たち坂下組は、土木部門を抱える総合建設業者として、道の大切さやありがたさを再認識し、感謝の気持ちを表現するために、「老松通り」を清掃しています。この清掃活動を通じて、ゴミ一つ落ちていない道や清掃している私たちの姿を、出勤途中の方々や通学時の生徒さんたちに見ていただくことで、道を想う姿勢が地域に広く浸透することを願っています。  
(宮崎本社総務部 田辺邦晃)



老松通りと坂下組宮崎本社



清掃後の達成感に笑顔がこぼれます

熊本



水道町花壇ボランティアの会

熊本市の中心部を  
素敵な花壇で癒します

私たち「水道町花壇ボランティアの会」は、花や緑が大好きな仲間が集まってできたボランティアグループで、現在15名ほどで活動しています。熊本県内で最も交通量の多い水道町交差点の4カ所に設置された花壇「水道町花壇」を、一年を通して管理しています。年に2回(夏・冬)花苗を植え換えだけでなく、毎日のように花壇に足を運び、掃除、草取り、水やり、落葉ひろい、土の手入れなど維持管理方法を工夫しながら活動に取り組んでおり、一年中花が咲き誇る自慢の花壇です。

熊本市内の中心部にある車や人通りが多い交差点なので、花壇の隅にゴミを捨てられることも多くありますが、道行く人々の目を和ませることができるよう、きれいな状態を保てるよう努力しております。

花壇での活動中には、信号待ちをしている方々から感謝の言葉をいただくことがあり、心を豊かにすることで活動を続けています。熊本にお立ち寄りの際はぜひご覧になってください。  
(代表 石井憲子)



水道町花壇に水やり



花苗植え換え

鹿児島



深川むらづくり連合会 鬼追いの郷の会

鬼追いの郷として

私たちは平成18年9月より鹿児島県曾於市末吉町深川地域伝統の県指定無形文化財「鬼追い」に因んで、「鬼追いの郷」として環境整備に取り組みしていましたが、現在は少子高齢化も進んだこともあり、深川むらづくり連合会として体制を改め活動しています。

活動範囲は県道500号末吉財部線の道サポートとして約1.6kmです。活動を始めた当時は、空き缶のポイ捨てや道路沿いの竹や木々の枝が生い茂る状況でした。現在、お盆前の8月上旬と新年を迎える12月中旬に地域一斉での清掃取り組み、春と秋には道路沿いの花壇の花植えを行い、道路利用者に変えられています。

また、今年度は、県下一周駅伝の通過に対して、道路サイドの密集した竹の伐採を行ったことから景観が非常に良くなり、ランナー達に喜ばれました。今後も活動を続け深川地域を盛り上げていきたいと考えています。  
(深川むらづくり連合会 鬼追いの郷の会 会長 迫杉雄)



春と秋に花壇の花植え



お盆と12月に一斉清掃

# 新しい「公」道守活動 輪を広げつながろう

九州7県の道守会員が一堂に会し、情報共有を通じて親睦を図る第12回「みちづくしin福岡2015」が平成27年11月13日に柳川市の柳川総合保健福祉センター「水の郷」で開催されました。九州各県から約420名が参加、大きく盛り上がりました。福岡県でのみ



山田実行委員長



道守九州会議  
榑木代表世話人  
全国道路利用者会議  
古賀会長



全国道路利用者会議  
古賀会長



柳川市  
金子市長



福岡県  
山崎副知事



国土交通省道路局  
増田企画課長

交流会は、主催者の山田三代子実行委員長、道守九州会議の榑木代表世話人の挨拶からスタートし、来賓の全国道路利用者会議の古賀誠会長、国土交通省道路局の増田企画課長、福岡県山崎副知事、柳川市金子市長からもご挨拶をいただきました。

## 【功労者表彰】

道守活動を長きに渡り牽引されてきた方々の功績をたたえる功労者表彰を行い、表彰状と記念品の「柳川まり」が贈呈されました。柳川では女の子が生まれると一生丸く、やさしくうつくしくありますようにという祈りを込めて「まり」を贈る古い習わしがあります。今回贈呈された「柳川まり」は道守柳川ネットワーク会員である城内婦人会の松本



きよこさんが心をこめて作っていただいたものです。

## 感謝状

吉崎収さん（元国交省九州整備局長）

## ●功労者表彰

- 道守ふくおか会議 酒井忠彬さん
- 道守佐賀会議 山崎昌治さん
- 道守長崎会議 村里静則さん
- 道守くまもと会議 西岡ミチ子さん
- 道守大分会議 竹田市立菅生小学校
- 道守みやざき会議 長友治さん
- 道守かごしま会議 肥田眞八郎さん

## 【首長対談】

### 新しい「公」道守活動輪を広げつながろう

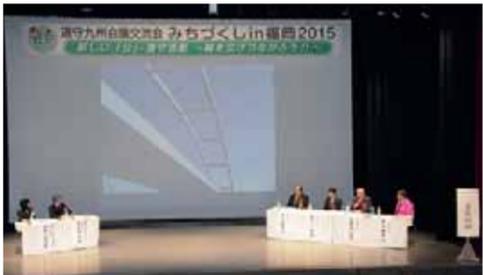
#### 対談

- 柳川市 金子健次市長
- 大川市 鳩山二郎市長
- 大牟田市 古賀道雄市長
- うきは市 高木典雄市長
- コーディネーター 安立清史氏
- 道守ふくおか会議代表世話人 安立清史氏



コーディネーター  
安立清史氏

福岡県南地域の4市（柳川市、大川市、大牟田市、うきは市）では、市単位で道守ネットワークが形成されており、市民と行政の連携が強く、清掃や花植など様々な道守活動を展開しています。また、市長が自ら道守活動に参加され、市民と共に汗を流しており、福岡県南地域は市民と行政との協働が上



「新しい公」をテーマに首長対談

手く成り立っている地域です。今回、「新しい公」―道守活動―をテーマに、4市の首長さんに市民と行政がどのように関わりを持ってきたか、今後どのように進めていくべきかご意見をいただきました。

各首長さんは口を揃



大牟田市  
古賀道雄市長



柳川市  
金子健次市長



うきは市  
高木典雄市長



大川市  
鳩山二郎市長

## 市民と行政が特性を生かして

え、道守ネットワークが地域に果たしている役割が非常に大きいことや、郷土愛を高め、環境整備やまちづくりに多大な貢献をされている道守ネットワークは地域にとって非常に大きな存在となっていることを強調された。

を振り奮闘しているのが「道守大川ネットワーク」である。（大川市長）  
・自分たちの住む街を綺麗にする、街への愛着を醸成し、大牟田を訪れる方々に美しい街並みを見ていただくおもてなしの心が広がりとつあると感じている。道守ネットワークを立ち上げることも大変だが、継続することが非常に重要。市も「道守おむたネットワーク」と協働の関係を保ちながら、少しずつ、その輪を広げていくために出来る限りの協力をさせていただく。（大牟田市長）

コーディネーターは九州大学大学院人間環境学研究院でボランティア・NPO・地域福祉の研究を社会学、福祉社会学の観点から行っている安立清史教授。各首長さんのご意見は次のとおりです。

・柳川の美しい環境は、「道守柳川ネットワーク」をはじめとする市民に支えられているが、さらに柳川の魅力向上に向けて、市民と行政が互いの立場や特性を活かして協力する、協働まちづくりが求められている。（柳川市長）

・いかにインフラを整備し維持管理をしていくかが重要であり、道というのは地域の財産であると共に認識を広げていかなければならない。その先頭で旗

## 【三者連携取組の意見交換】

意見交換  
うきは市

吉岡慎一副市長



日南海岸きらめきライン  
谷越氏



うきは市  
吉岡副市長



コーディネーター  
玉川副代表世話人



日豊海岸シーニック・  
バイウェイ 橋本氏



意見交換の様子

昨年度、「新しい地平を目指して」というテーマで開催された「みちづくしin大分2014」から1年が経過し、少しでも道守活動を発展させていこうと各地域でいろいろな議論がなされていますが、まだまだ模索中の状況にあります。そういった中、具体的な提起として、「道守活動」「道の駅」「風景街道」の道を舞台にした3つの活動の連携について、掘り下げて具体的な前進を図るための議論を行いました。パネラーとして、三者の取り組みを先進的に行われている3地域の方々に、活動内容を紹介いただきました。

各パネラーの意見は以下のとおりです。

・東九州道（大分―宮崎間）の整備などを契機に、交流の入り口として道の駅と連携した取組みを展開。通過の町とならないため、魅力ある地域づくりを目指したい。（橋本正恵氏）

・風景街道の役割は繋ぐこと。エリアの中で道守活動を繋ぎ、美しい風景を後世に継承する。多様な主体が観光振興、地域振興に寄与し、道の駅が風景街道としての役割を担い拠点となり、一体的なものとなるべきである。（谷越衣久子氏）

・道の駅うきはが拠点となり、道守が線で繋ぎ、風景街道が面で繋ぐ。行政は黒子でコーディネーターとなり、繋ぐ仕掛けを行い、市全体としてトータルな動きをすることが重要である。（吉岡慎一氏）

・コーディネーターの玉川副代表世話人の「まとめ」。風景街道、道守活動、道の駅にとって、情報発信が大事。そのコンテンツの充実が必要だ。実際の活動を活発にすると同時に情報発信していくことが、三者連携を強め、活動の認知を広げ、地方を活性化していく道を拓くことになるでしょう。

### 【各県道守会議活動報告】

『新しい「公」―道守活動―輪を広げつながらう!!』をテーマに4県の道守さんに道守活動報告をいただきました。

- 道守かごしま会議 田島直美氏
- 道守佐賀会議 三原ユキ江氏
- 道守長崎会議 田口昭子氏
- 道守くまもと会議 西岡ミチ子氏



道守ふくおか会議

炭坑節



大会旗授受

司会の道守おおむたネットワーク  
三原さん



相撲甚句



はかた夢松原の会  
疋田氏



コース名：世界遺産・重要文化財を巡る有明海沿岸の旅  
体験箇所：（大川エリア）藩境のまち歩き（旧吉原家、高橋家）、筑後川昇開橋（大牟田エリア）三池港展望所、宮原坑跡



宮原坑跡



川下りの様子

### 【現地体験学習会】

2日目は、福岡県南地域の3コースをご用意し、地域資源や取り組みなどご堪能いただきました。3コースで合計103名の方々にご参加いただきました。

コース名：柳川の人・まち・味ふれあい歩きと川下り  
体験箇所：柳川まち歩き（有限会社龍川魚商店、大松下館本舗、古賀神棚店、おいでメッセ柳川）、川下り  
参加者：32名

### 【コースB】

## 『みちづくしin鹿児島2016』開催案内！

「みちづくしin鹿児島2016」の第1回実行委員会が平成28年2月18日鹿児島市内で行われました。道守かごしま会議の会員及び国、県、市の行政関係者からなる実行委員が集まり日程、場所を確認し今後のプログラム運営等について準備を進めることで第1歩を踏み出しました。

**日程**：平成28年11月25日・26日の2日間

**1日目**：交流会  
会場：薩摩川内市国際交流センター（薩摩川内市天辰町）

**懇親会**  
会場：ホテルグリーンヒル（薩摩川内市樋脇町市比野）

**2日目**：現地体験学習会

**第1回実行委員会の様子**




鹿児島県内市街地図より  
鹿児島県内市街地図より

コース名：花と実りを満喫するフルーツの里うきはの旅  
体験箇所：よしいコスモス街道、柿狩り（船越農園）、福富サルビア街道、道の駅うきは  
参加者：31名



コスモスを摘む参加者

### 【大会宣言】

私たち「道守」は自分たちのまちやみちは自分たちで！できる人ができることから！を合い言葉にボランティア活動をして参りました。今大会で、道守、道の駅、風景街道の、道を舞台上に活動している三者連携を具体的に一歩踏み出すため、

「ベチカ」「からまつ」

### 【コーラス合唱】

柳川市は、20世紀を代表する詩人 北原白秋の生誕の地です。今回、白秋の母校である柳川市立矢留小学校5年生41名にコーラス合唱のプレゼントをいただきました。



道守長崎会議 田口氏



道守かごしま会議 田島氏



道守くまもと会議 西岡氏



道守佐賀会議 三原氏

地域情報の発信などの運動を活発にすることが提案されました。それは「地元」を共につくるために行政と協働しながら「新しい公」となる芽を育ててきた私たちの活動を一層、羽ばたかせるでしょう。これからも道守活動を通じて「人づくり」「地元づくり」に貢献できるよう、様々な団体と共に輪を広げ、固く手をつないで前進します！

みちづくしin福岡2015実行委員長 山田三代子  
道守ふくおか会議 代表世話人 安立清史

### 【交流集会】

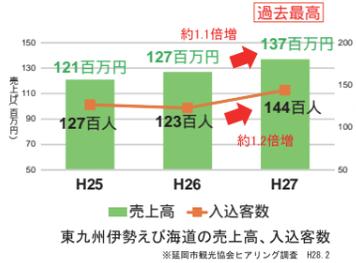
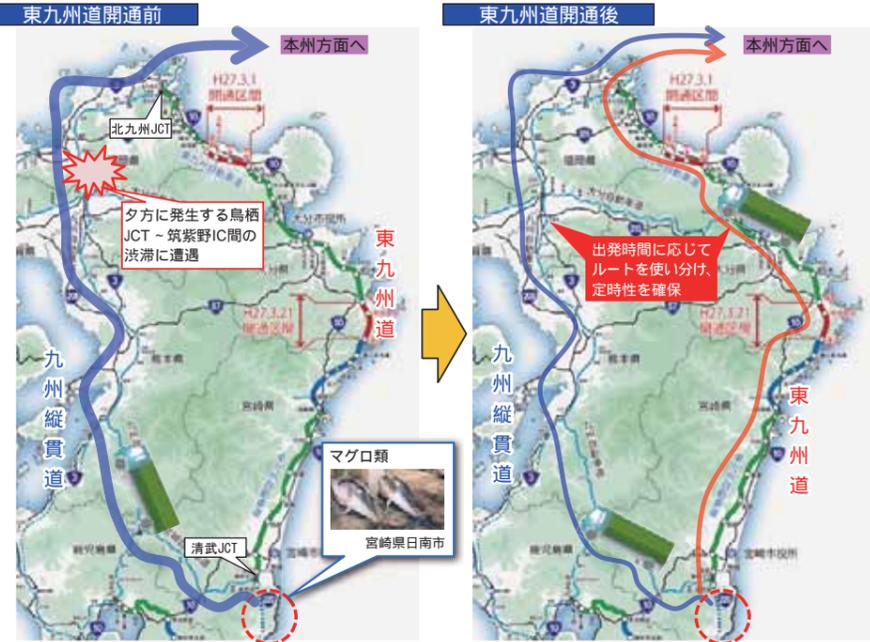
交流集会は、道守大川ネットワークの大木代表による主催者挨拶からスタートし、古賀誠会長による乾杯や道守の生みの親である岡本元九州地方整備局長、吉崎元九州地方整備局長にご挨拶いただきました。道守屋台では、各県のイベントや地域情報が紹介され、各地域のお酒や名産品など各県ブースに所狭しと並べられ、例年同様、大好評を得ておりました。アトラクションでは、「三橋町柳川沖の石太鼓振興会」の皆さんによる力強い「沖の石太鼓」、はかた夢松原の会の疋田初美さんによるみちづくしパー



沖の石太鼓



南京玉簾



佐伯市と延岡市の海産物の3店舗が参加した、地元特産の伊勢えび料理の祭り(毎年9月から12月)

道の駅北川はゆま 延岡学園高校 延岡水郷駅やな

**水産業の生産性が向上**  
本州方面の市場へ出荷する際、時間による九州縦貫道の渋滞区間を回避するため東九州道経由のケースも見られ、マグロの安定的な搬送が可能となり、生産性が向上する動きが見られました。

**元気な地域に**  
「東九州伊勢えび海道」の食のイベントでは、県外客が増加し、売上高や入込客数が過去最高を記録。食を主体に広域的なPRや地域が連携した食の開発など、地域おこしの取組みが活発化しています。

**医療圏の空白地帯が解消**  
三次救急医療施設への60分圏域の人口が約7万4千人拡大し、東九州沿線のほぼ全域をカバー。また、ドクターカーの出動エリアが拡大するなど迅速な医療体制が構築されました。



**災害津波時のリスク回避により、住民が安全・安心に**  
東九州道は、津波に対して浸水リスクの回避など強靱化を有するとともに、避難場所や避難階段も設置されており、災害に対する備えができ、住民の安心感が向上しました。

東九州自動車道の期待される効果(所要時間の短縮)



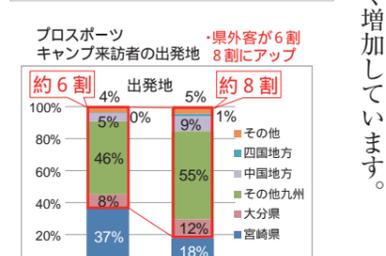
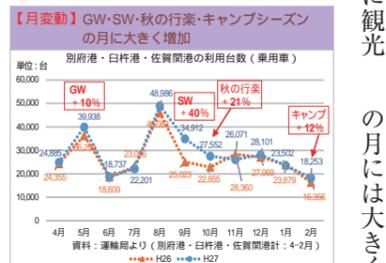
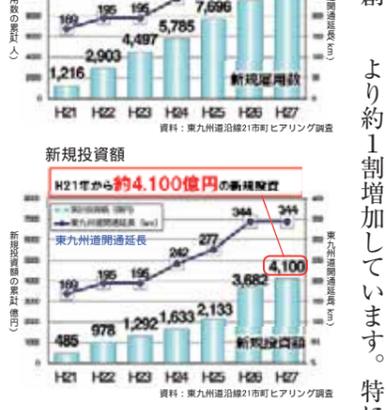
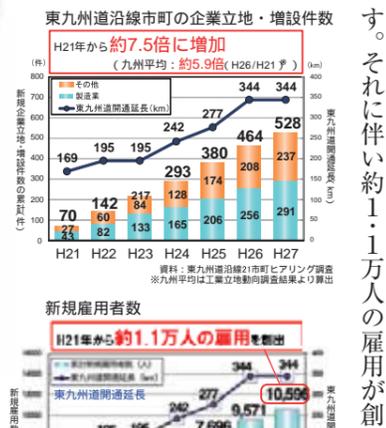
高速道路の整備によるストック効果が高めるために、開通にあわせ、これからの地域づくりをどうするのか、地域の皆さんとともに考え、取組を進め地域を元気にしていきましょう。

**さらに広がる高速道路**  
九州の高速道路は、まだ8割が開通したところです。これから東九州道ではさらに宮崎・日南・志布志・鹿屋を、九州中央道は熊本・延岡を進めていきます。

**魅力的な地域資源を発見・育てる**  
東九州道の開通で時間圏域が拡がり、新たな観光ルートの形成など、九州の観光活性化が期待されます。高速道路の開通により観光客を呼び込めず「素通り」を心配する声もあり、そのためにも地域情報の発信、地域資源の磨き上げなどの地域の特徴を活かした取り組みが必要となります。



**循環型の高速度ネットワークが形成**  
東九州自動車道が平成28年4月24日に開通し、北九州〜大分〜宮崎間の縦軸がつながりました。東九州地域の産業発展や観光振興として、また人命を守る「命の道」として悲願達成となりました。九州全体で循環型の高速度道路網が形成され、このネットワークを活用した九州圏に活力をもたらす交流・



東九州道(北九州市)宮崎市(宮崎市)が開通

連携が図られ様々な効果をもたらすことが期待されます。  
地域経済を支える企業が次々進出  
東九州沿線の市町村では、東九州道の延伸に伴って、平成21年から平成27年までに約530企業が進出しています。それに伴い約1.1万人の雇用が創

出され、約4,100億円の新規投資が行われました。  
四国と九州が身近に  
四国との観光連携を強化する取り組みも活発になり、四国からの乗用車によるフェリー利用者が増加し、昨年度より約1割増加しています。特に観光





## NYの「サマーストリート」、公園道路に変身 マンハッタン、車締め出し、ジョギング、サイクリング

このところ、毎年、夏休みの約1か月間をニューヨーク・マンハッタンで過ごす。緯度が札幌とほぼ同じで、九州に比べてはるかにしのぎやすい。ワシントンDCで数年、暮らしていたが、ここは南部で、夏は暑いのに、冬はドカが雪が来る。それに比べて、NYの夏は涼しい。マンハッタンだと、日用品の買い物は歩いてすませられるし、野菜、果物などは屋台のおじさんが安くしてくれる。勿論、酷暑の日もあるが、電気代が安いから冷房をガンガンかけて昼寝が出来る。



パークアベニューを自由に走るジョギガーたち(警察官が安全を確保している)



正面の旧パンアメリカン航空ビル下をくぐって走り抜ける



NY市内に登場したレンタサイクル

楽しみは、8月の「サマーストリート」、日本で言う歩行者天国で、マンハッタンの中央を南北に走るパークアベニューが解放される。文字通り、車を締め出して公園道路となる。8月は1、8、15日(各土曜日)の午前7時から午後1時まで(2015年の場合)。東西を走る72ストリートからダウンタウンのブルックリン橋まで約10kmをジョギング、サイクリング、もちろんウォーキングもOKだ。ただ、歩く人はほとんどいない。圧倒的にジョギングが多い。私のような、お一人様、ペア、グループ、ファミリー。乳母車に旗を立て、ジョギングする若夫婦も。ウエアも肌の色も、白から黒、黄色と色とりどり、スピードもそれぞれ。共通するのは楽しそうな会話と笑顔だ。日本のように、仮装したりする人はいない。ひたすら走ることを楽しむだけではない。ただ、米国人はジョギングが好きだ。老いも

たすら走ることを楽しむだけではない。ただ、米国人はジョギングが好きだ。老いも

若きも、男も女も皆よく走る。朝のハドソン川、イーストリバー沿いの道やセントラルパークはジョギガーでいっぱい。強烈な健康志向を感じる。セントラルパークには周囲約2kmの貯水池がある。都市用水として巨大なパイプで導水して貯めている。ニューヨークにとつて「命の水」だ。この池の周辺を走る人も多い。かのケネディ大統領夫人、ジャックリンさんが毎日、走ったコースで、池の傍に看板が出ている。公園も楽しいが、超高層ビルの街を走るのには、ニューヨークにとつて、より魅力的なようだ。サマーストリートの日はパークアベニューの道路いっぱいになっている。かつて、ランドマークになってきた、パンアメリカン航空会社の高層ビル(今は身売りして生命保険会社ビル)が正面に立ちはだかる。しかし、この日はビルの上階部分の車道が解放されているので、ビル下のトンネルを抜けて行ける特別の日だ。Vサインを出して、記念撮影の若者たちも。所々、ボランティアが道路中央に立つて、手書きの「GO」「STOP」標識を出している。ビルの谷間の小公園でジャ

たすら走ることを楽しむだけではない。ただ、米国人はジョギングが好きだ。老いも



プロフィール  
たまがわ たかみち  
玉川 孝道  
道守九州会議副代表世話人。元西日本新聞記者、ワシントン特派員、編集局長、副社長

ズ、クラシック、太鼓の演奏も。いつもと違って、路上にごみひとつない。彼らがクリーンアップしたのだろう。大変なのは、お巡りさんだ。4ツ角ごとに4、5人の制服警官が立って、車の進入を規制している。ニューヨーク市警の出の交通指導に違いない。前日から路上駐車を締め出し、警告文も張り出す。米国は圧倒的に車社会だが、最近ではNYでもレンタサイクルが行われている。排気ガス規制、地球環境などを意識して「ブルー(青)」がシンボルカラー、「車を捨てて街に出よう」というわけだ。かつては犯罪と事故の「危険な都市」の代表だったニューヨークが安全になり、渋滞も解消、地下鉄の落書きが少なくなつて、さらにクリーンNYへと進んでいる。街と道路空間を人の手に取り戻そうとするサマーストリートの体験だった。

## 道守たちのトピックス

### 道守「団体が、手づくり郷土賞」を受賞しました!

地域の魅力や個性を創出している良質な社会資本及びそれと関わりがある優れた地域活動が一体となった団体を選定する国土交通大臣表彰「平成27年度手づくり郷土賞」の大賞部門に福岡会議の「はかた夢松原の会」、一般部門に長崎会議の「環境緑化を考える会」が受賞しました。九州での受賞4団体のうち2つが道守団体という快挙です。「手づくり郷土賞」は、個性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が一層推進されることを目指し、昭和61年度から実施されています。「手づくり郷土賞」には「一般部門」と一般部門受賞後一層の活動の充実が図られた「大賞部門」があります。

### 大賞部門 松原復元から見えてきた「水と緑とまちづくり」

特定非営利活動法人 はかた夢松原の会 (福岡県福岡市)

昭和62年シーサイドももち海浜公園に市民参加で松原復元活動を開始し、玄界灘沿岸に活動を拡げ、現在までに松の植樹本数が50,000本を超えました。復元した松原は、玄界灘風景街道の景勝地として位置づけられ、海の中道海浜公園では松の植樹と保育活動によりすばらしい松原に成長しました。また、他の地域にも声かけし、松原復



松の植樹5万本達成

サザエプロジェクトで子ども達とワカメ栽培



元・保存活動を活発に実施しています。

東日本大震災で被災した陸前高田市の高田松原を守る会には、被災直後から松原復元のノウハウを提供。震災直後に開始した募金活動は5年が経過し、募金は定期的に送金して、被災地の皆さんと交流を続けています。

はかた夢松原の会は「水と緑とまちづくり」をテーマに、「国道道路花いっぱい運動」「博多湾・サザエプロジェクト」「水源地の筑後川流域との交流」など大学生を中心に子供から高齢者まで巻き込んで様々な活動を展開しています。

代表の磯谷理事長は、「何事も楽しく、地域のために、福岡市民のために、すばらしい景観づくりを目指す!」と日々、先頭に立って頑張っています。

### 一般部門

### 道路美化活動から始まった地域おこし 大島の廃校グラウンドが環境農園に生まれ変わった!

環境美化を考える会(長崎県西海市)

松島炭鉱大島鉱業所の閉山(昭和45年)後、離島特有の高齢化・過疎化が進む中、平成11年の大島大橋架橋時に本会が発足し、道路除草と植栽を開始しました。除草後の草木処理について、活動の自己完結型を模索し、除草で発生した草木を堆肥化させ、種植え、栽培し道路植栽に活用する循環型の仕組みを構築し、小中学校(9校)と連携した総合学習を平成16年より毎年実施しています。植栽用の花苗については道守・日本風景街道の団体を通じて他の地域でも植栽に利用されるなど、活動が地域の広がりを見せています。

代表の田口昭子さんは「子供は地域が育てる!」がモットー。「自然を愛して大島らしい景観づくりを子供達と共に道を守りながら実施しているの」で、大島を巣立つ子供達は郷土を忘れない。田口さん自身の元気の秘訣は、若者との交流。お互いに声をかけ、子供を守りながら子供に守られていく」とのことでした。



「手づくり郷土賞」の公開審査会

日本初のまち歩きガイド

大分県ふるさとガイド連絡協議会

会長 平野芳弘さん



「ここは名高き流川 情けの熱き湯の町を  
まっすぐに通る大通り 旅館商店軒並び 夜は  
不夜城でございます」 昭和3年に別府観光の  
父と呼ばれる油屋熊八翁が別府周遊「地獄めぐ  
り」で日本初女性バスガイドをスタートさせた  
際に、七五調ガイドを行った一節である。

それから約70年後の平成11年に日本初のまち  
歩きガイドによる別府八湯ウォーク「竹瓦かい  
わい路地裏散歩」がスタートした。

まちを歩けば故郷の歴史・文化・自然がよく  
見えてくる。そのうち町の人々が路地裏を清掃  
したり花を植えたりして道がだんだんきれいにな  
り、笑顔で挨拶をしてくれるようになった。  
住民が故郷に自信と誇りと愛着を持ってガイド  
を行い、次世代の子供たちに故郷の良さを伝え  
ている。寂れた町が少しずつ元気になっている。  
平成22年には大分県ふるさとガイド連絡協  
議会が設立され大分県内54団体、約1780名の  
ガイドが各地で活躍している。大分は全国初の  
女性バスガイド誕生地のDNAを今でもしっか  
りと引き継いでいる。

横顔



菅伊佐男  
地域道路調整官

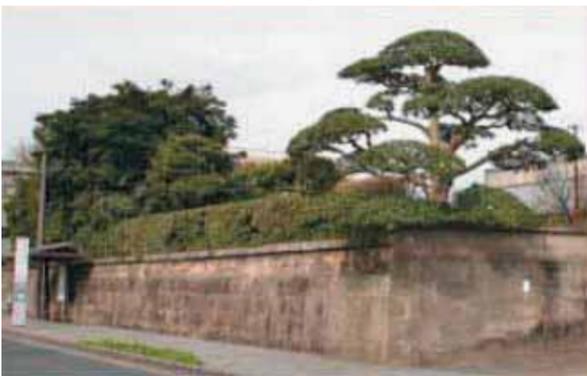
菅伊佐男地域道路調整官は、本年4  
月より佐伯河川国道事務所長から現職  
に就任。平成23年からの道路管理課長  
時から、その後の赴任地でも自身の豊  
富なスタミナを使い道守活動に携わっ  
てこられました。「この度、道守と風  
景街道の担当になり道の駅と合わせて  
三者連携をより深めて参りたいと思っ  
ております。また、『何事も楽しみな  
がら行つ』をモットーに頑張りますの  
で、皆様のご協力をよろしく願いま  
す。」と張り切っておられます。



甲斐浩己  
道路管理課長

甲斐浩己道路管理課長は、本年4月  
より道路保全企画官から就任。宮崎県  
出身で趣味は魚釣りとのこと。「道路  
は私達にとって出会いの場、道守活動  
をとおして皆様との出会いを大事にし、  
次世代へ継承できるように協働・連携を  
強化していきたい」と意欲的です。

かごしま風景街道



今和泉島津家本邸跡(篤姫生誕の地)



夏の桜島

薩摩よりみち風景街道



出水麓の薩摩武家屋敷群



長目の浜(甌島)

今年は鹿児島でみちづくしが開催されますので、

鹿児島の風景街道を紹介します。

道守の輪



3月10日、大分市の大分銀  
行宗麟館において日本風景街  
道・道守・道の駅3者の代表  
が集まり、シンポジウム「語ろうみんなで！三つの輪の  
みらい」を開いた。

3団体は「道」を通じて地域づくり大きく貢献して  
いるが、3者の特性を活かしながら緩やかな連携によっ  
て更なる地域貢献が出来ないかを話し合った。

シンポジウムは、三浦洋一委員長のご挨拶にはじまり、  
コーディネーターの道守大分会議・亀野辰三副代表の進  
行で、活動の経緯と現状を語り、各々の果たすべき役割  
について今一度見つめ直し問題点を考える「これまでと  
今」を第一部のテーマとした。

パネラーからは、それぞれの生い立ちや過去の経歴を



「語ろうみんなで！ 三つの輪のみらい」



シンポジウムでの活発な意見交換



「友永パン」をいただく茶話会



用競技用車椅子を寄付する募金活動を行う」ことを決め  
た。大分は車椅子国際マラソン大会の地であり、パラリ  
ンピックの父・故中村裕博士がおられ、身障者に優しい  
地であることを背景に、社会貢献活動を通して、地域貢  
献することが未来へ繋がる第一歩になるという目標を掲  
げた。

今回、紅茶を飲みながら老舗「友永パン」をいただく茶  
話会が参加者に好評で、2時間を通し、パネラーと参加  
者約40名との距離が近づき、活発な質疑応答の場となっ  
た。

(道守大分会議事務局 木ノ下結理)

紹介し、お互いを認識しあった。ま  
た第二部「そしてみらいへ」では、  
課題の解決策を探るとともに、連携  
を念頭にした行動の具体策を発表し  
あった。3つの輪の交わる部分には  
HOPE(希望)がある！と一同の  
見解が一致した。

3者連携活動として『2020年  
パラリンピック開催に向け、子ども  
用競技用車椅子を寄付する募金活動を行う』ことを決め  
た。

道守通信 編集後記

○4月14日以降の地震で被災され  
た熊本・大分の皆様にご心からお見  
舞い申し上げます。まだまだ余震  
が続いていますが、早く道路が開  
通し、往来がスムーズにできるこ  
とを願っています。

また、熊本県のシンボルである  
熊本城の修理には数年を要するこ  
のことで、県民の皆様にとってはな  
かなか気持ちが悪く復旧に至らないの  
ではないかと心配しています。

○春号の発行が遅れましたこと、  
お詫び申し上げます。

ちょうど編集を終え、印刷にか  
かるうとしたときに熊本地震が発  
生しましたので、急遽、編集内容  
を変更し、熊本地震の特集を掲載  
することになりました。たくさん  
の活動がなされている中、掲載で  
きなかった部分は多々ありますが、  
まずは第一報です。

○第12回のみちづくし交流会は11  
月13日と14日に柳川市で新しい  
「公」道守活動輪を広げつながら  
うをテーマに開催されました。  
400名を超す多数の参加者で交  
流できました。

第13回は鹿児島・薩摩川内市で  
11月25日・26日に開催します。た  
くさんの道守さんたちと飛来した  
鶴に会えることを楽しみにしてい  
ます。

## ～ 道守を支援いただいている賛助会員の皆様 団体・企業 ～

順不同

(一社)九州地域づくり協会	九州国道協会	九州電力(株)
(一社)プレストレストコンクリート建設業協会 九州支部	(一社)日本道路建設業協会 九州支部	福岡市道路利用者会議
(一社)福岡県建設業協会	福岡県道路協会	(株)大林組 九州支店
(一社)佐賀県建設業協会	佐賀県道路愛護協会	鹿島建設(株) 九州支店
(一社)長崎県建設業協会	長崎県道路協会	建設サービス(株)
(一社)熊本県建設業協会	熊本県道路利用者協会	清水建設(株) 九州支店
(一社)大分県建設業協会	大分県土木建築協会	大成建設(株) 九州支店
(一社)宮崎県建設業協会	宮崎県道路利用者協議会	長幸建設(株)
(一社)鹿児島県建設業協会	鹿児島県道路利用者協議会	(株)高山組
みちを考える会	社会福祉法人 宇水会 特別養護老人ホーム宇水園	
朝日開発コンサルタンツ(株)	(株)アジア技術コンサルタンツ	(株)アップス
(株)安部日鋼工業 九州支店	(株)安藤・間 九州支店	いであ(株) 九州支店
鳥城塗装工業(株)	(株)エスイー 九州支店	NTTインフラネット(株) 九州支店
NTTインフラネット(株) 熊本支店	NTTインフラネット(株) 鹿児島支店	扇精光コンサルタンツ(株)
大分交通(株)	(株)大島造船所 九州営業所	(株)荻島組
(株)オリエンタルコンサルタンツ 九州支店	鹿児島土木設計(株)	上内電気(株)
川田工業(株) 九州営業所	九建設計(株)	(株)九州開発エンジニアリング
九州建設コンサルタント(株)	九州地区道路利用者会議	九州みちの会
(株)橋梁コンサルタント 福岡支社	(株)ケー・シー・エス 九州支社	(株)建設環境研究所 九州支社
(株)建設技術研究所 九州支社	(株)建設技術コンサルタンツ	(株)建設技術センター
(一社)建設コンサルタンツ協会 九州支部	コーアツ工業(株)	(株)駒井ハルテック 九州営業所
(株)西海建設	(株)サタコンサルタンツ	三州技術コンサルタント(株)
昭和コンクリート工業(株) 九州支店	新成建設(株)	新日本技研(株) 福岡支店
(株)新日本技術コンサルタント	(株)西部技建コンサルタント	(株)センコー企画
(株)総合技術コンサルタント 九州支店	そうじの会(多久の未来を創る会)	農事組合法人そよかぜ館「道の駅大和」)
大日本コンサルタント(株) 九州支社	大福コンサルタント(株)	太陽技術コンサルタント(株)
瀧上工業(株)	宅島建設(株)	(株)玉の湯
(株)地域科学研究所	(株)長大 福岡支社	通信土木コンサルタント(株) 九州支店
(株)東亜コンサルタント	東急建設(株) 九州支店	(株)東京建設コンサルタント 九州支社
戸田建設(株) 九州支店	(株)友岡組	(株)名村造船所 福岡営業所
南生建設(株)	西日本技術開発(株)	西日本新聞エリアセンター連合会
西日本コントラクト(株)	日鉄鉱コンサルタント(株) 福岡支店	日本工営(株) 福岡支店
(一財)日本造園修景協会 大分県支部	(株)野村建設	葉隠会道守部会
(株)萩原技研	範多機械(株) 福岡営業所	(株)ピーエス三菱
(株)日高時計本店	(株)福山コンサルタント	(株)富士ピー・エス
(株)ぶぜん街づくり会社「道の駅」豊前おこしかけ)	復建調査設計(株) 九州支社	中央復建コンサルタンツ(株)
前田建設工業(株) 九州支店	(株)丸福建設	(株)水野建設コンサルタント
(株)みともコンサルタント	宮崎空港ビル(株)	(株)宮崎産業開発
宮地エンジニアリング(株) 福岡営業所	八千代エンジニアリング(株) 九州支店	(株)ヤマウ
(株)ヤマックス	(株)ワンステップ	個人会員71名



発行「道守九州会議」

広報誌「道守通信」春号  
平成28年6月20日発行

### 「道守九州会議」事務局

道守支援室(九州地方整備局道路管理課内)  
〒812-0013 福岡市博多区博多駅前2丁目10番7号  
TEL.092-471-6331(代) FAX.092-476-3481

(一社)九州建設技術管理協会内  
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号  
TEL.092-471-0189 FAX.092-414-0767

道守HP <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/> e-mail [michimori@qsr.mlit.go.jp](mailto:michimori@qsr.mlit.go.jp)